

「渾然一体」

～新しい1人の人として～

エペソ2:14～18

■ 今年のテーマ「渾然一体」

渾然一体というのは「分け目なく一つになるさま」と辞書には書かれています。今日の聖書箇所のもので一つとされるというのは、ただ一つになるというのではなく、新たな一つが生まれるということなのです。すべてが新しくなった者の歩みとして私達が行う最初のスタートは古い自分が置き去られた時に新しい自分が一人で生まれるのではなくて新たな価値が融合を生み出すということです。昨年の私達の教会のテーマは神の知恵に満たされる「英知」、今年は「渾然一体」。この流れの中で何によって一つとされるのかを学んでいきたいのです。知恵があれば融合することは簡単です。ところが、知恵がないと融合できません。ですから、クリスチャンは忘却して忘年するではありません。その一年が終わった土台の上に新しい一年が足されていくのです。

■ 隔ての壁…

もし、昨年ソロモンのような知恵をもったのなら今年はその知恵をもって二つのものの隔ての壁を壊すことができるかもしれません。今、どのような隔ての壁をもっていますか？夫婦の壁、親子の壁、友達との壁、職場の壁、上司と部下、経営者と従業員… etc. 壁には色々なものがありますが2つの壁があります。1つ目は「無視」という壁です。それは相手の存在を否定するということです。2つ目は「見下す」という壁です。ナチス・ドイツがかつて築いた壁も見下しの壁です。ナチス・ドイツがやってきたことはいけないうことだと習ってきて誰一人良いとは思っていません。なのに、私達は見下していませんか。新年のこの時もう一度私達は新しい人を見出さなければなりません。「あなた」と「わたし」ではなく「融合」なのです。自分が嫌だと思ふその人に対して融合しなさいと神様は言われているのです。

■ ①あなたの壁を取り去る十字架の業

私達は自分の壁を取り去る十字架の業があることを忘れてはいけないうのにいつも忘れます。「自分が正しい！」と言い始めた時にそこには壁ができるのです。相手はあなたの心を理解することができません。その相手にいかにあなたが話してもその人に届くことはありません。ですから、イエス・キリストがなされた御業はクリスマスの家畜小屋だったのです。家畜小屋に生まれて33年間の生涯を生きた理由は、唯一私達を理解するためです。理解して、その理解の上で自らがどう生きるかを示す必要があったので神の在り方を捨てて降りて来る必要がありました。家畜小屋で生まれること、人に裏切られること、自分の願う道ではない道を従順に生きること…彼の生き様はそういうものでした。

■ ②あなたの法律を御言葉に！！

国民のレベルで一番ノーベル賞をとっている国はイスラエルです。イスラエルは全世界の人口の0.2%しかいません。しかし、彼らのノーベル賞受賞率は20%です。そんな彼らが何故ノーベル賞をとれるのか研究した大勢の大学の研究者はテフェリン教育だと口をそろえて言います。親はずっと子どもにモーセ五書を覚えさせるのです。テフェリン教育の始まりはまず3歳までに起こります。お腹に赤ちゃんが宿ったら母親はその子どもに毎日3回タルムードを読んで聞かせます。そしてその赤ちゃんが生まれてからも、その子に接する時に必ずその言葉を伝えます。ですから、普通の会話よりもその子どもには聖書の言葉を教えるそうです。

イスラエルの人々は13歳までに6千個の御言葉を覚えます。神様が天地創造をして今日まで先祖がどう生きてきたかの御言葉を彼らは覚えるのです。そして、13歳で成人したその人格的姿は日本や世界の先進国の20代よりもずっと優れていると言われています。また、イスラエルの子ども達は6歳の入学式で入学証書の代わりに石板をもらうそうです。その石板にはα～βまでのヘブル語と十戒、レビ記1章と申命記33:4が書かれていて蜂蜜が塗ってあり、みんなで舐めて「甘～い」と言うそうです。「あなたのみことばは、私の上あごに、なんと甘いことでしょう。蜜よりも私の口に甘いのです。」(詩篇119:103)の御言葉を体験するのです。そして、毎日学校に行くとき先生が子ども達に蜂蜜を舐めさせて「これが勉強だよ」と教え、子ども達は勉強が好きになるそうです。彼らが学んでいるのは学問ではなく生き方なのです。親の価値観とか家々のルールではなく聖書の価値観を通して生き方を学んでいるのです。自分の法律を御言葉に変えて下さい。御言葉に生きるということは、その行動がとても大切です。そして、その行動はそれを見ている人に奇跡をもたらすのです。愛とはそのようなもので連鎖します。ですからイエス・キリストは自らがその愛を行動に移す方法を選んだのです。私達が愛せば愛するようになります。憎しめば憎しむようになるでしょう。ですから、今年もし私達が多くの人達と融合して生きる道を選びたいのなら、すなわち、この地にあって人々に必要とされて歩むためには私達が愛する道を選ばなければなりません。そして、その道はもうすでに私達は知っています。昨年それがしたくてもできない時があったかもしれません。そして、年が変わったからといってすぐにそれができるわけでもありません。だから私達は祈ります。

主よ、わたしをあなたの平和の道具としてください。憎しみのある所に、愛を置かせてください。侮辱のある所に、許しを置かせてください。分裂のある所に、和合を置かせてください。誤りのある所に、真実を置かせてください。疑いのある所に、信頼を置かせてください。絶望のある所に、希望を置かせてください。闇のある所に、あなたの光を置かせてください。悲しみのある所に、喜びを置かせてください。主よ、慰められるよりも慰め、理解されるよりも理解し、愛されるよりも愛することを求めさせてください。なぜならば、与えることで人は受け取り、忘れられることで人は見出し、許すことで人は許され、死ぬことで人は永遠の命に復活するからです。

祈りましょう…

神様。あなたの知恵で満たされ、隔ての壁を壊す人生を歩ませてください。あなたがその壁に来て下さいますように。その人と私の壁を壊した時、その人との関係が回復されますように。人を指差し、見下し、排除する人生から、どうかその人を建て上げ、愛し、導く人生へと変えてください。イエス・キリストがなされたその通りそれを私達が願うことができますように。私達がとったその小さな愛のプレゼントがそれを見た多くの人々に奇跡をもたらしていきますように。神様あなたを信じます。どうか、あなたが生きて私の内に、私達の内にお働いてください。今年一年間、もう一度このメッセージを思い出して新たな一人の人を見出して和合をもたらすような一年でありますように。

(要約者:全本 みどり)

(2020年1月1日)